



ぽれぽれしター ぽれぽれしター

第28号
2016.01.01

理念
「人よりそう ひらかれた病院」
病院基本方針
※安心・安全ながん医療を提供します
※医療提携を進め、地域医療に貢献します
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

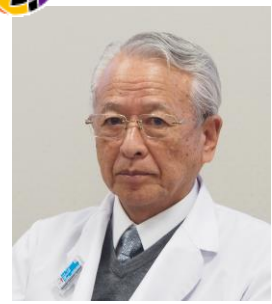
診療案内
内科 脳神経外科 整形外科
耳鼻咽喉科 婦人科 泌尿器科
放射線科 消化器科 緩和ケア科
乳腺外科 腫瘍外科 腫瘍内科
ペイン
【診療受付時間】
午前8:30～正午
【診療時間】
平日 午前9:00～午後5:00
土曜 午前9:00～正午
【外来の休診日】
日曜・祝日・年末年始
【お見舞い時間】
正午～午後8:00



2016年目標



平成 28 年 謹んで新年の御祝詞を申し上げます。
さて、がん治療において、再発は大きな問題です。手術や放射線・抗癌剤でがんが無くなったはずが、なぜ再発してくるのでしょうか。再発しない人との違いは何でしょうか。
がん細胞は様々な理由で誰にでも生じていますが、簡単になんにもならないのは、免疫細胞ががん細胞を殺してくれるからです。一方、一度がんになった人は、がん細胞がより出来やすい状態になっていて、免疫力低下に乗じて再発すると
(病院長 中村 仁信)
思われます。ですから、再発を防ぐには、免疫力を低下させないこと、免疫力を強くすることが重要です。そのためには、良質な睡眠、軽い運動の習慣、発酵食品を多く摂る食事などが大事ですが、免疫を高める**温熱療法（ハイパーサーミア）**も再発予防に有効と考えています。



(院長補佐 林 太郎)

2016年 新年明けましておめでとうございます。
今年で当院も開院 10 周年を迎えることができました。これもひとえに皆様方のご指導ご鞭撻の賜物と感謝申し上げます。ますます患者さんに信頼して頂ける病院として頑張っていきたいと思っております。さて、近頃芸能界でも癌を患ったことを公表し、闘病生活を報道する芸能人が増えているように思います。報道を目にすると、癌は他人ごとではないなど感じられることはないでしょうか。いまや二人に一人が癌になると言われており、ご存知のように日本における死因の 1 位も癌（悪性腫瘍）となっています。癌は早期に発見できるほど根治の可能性が高まります。特に症状がないうちに発見することが大切です。
日本の医療は癌治療には力を注いでいますが、癌の予防、早期発見については十分ではないと感じます。市民健診だけでは早期癌の発見は困難ですので、当院でも施行している人間ドッグやがんドックなど定期的に受けてみてはどうでしょうか。癌治療に加え、癌の予防、早期発見でも地域医療に貢献できれば幸いです。

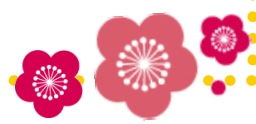


2016年 新年明けましておめでとうございます。
今年は彩都友協会病院が開院して、10年目の節目の年を迎えます。
患者様・ご家族様にとってこの病院が理念のとおり寄り添えていますでしょうか？



(看護部長 東村昌代)

環境面では、桜、つつじ、みかんの木のほかに金木犀も加わり、匂いが遠くまで香ることを期待しています。金木犀をつけた美含水は中国の楊貴妃も使用されていたそうです。
看護部では、患者・ご家族さまからの看護相談がはじめられるように準備しています。
がん看護専門看護師やがん放射線療法認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師が対応させていただきます。具体的な相談内容についてはポスターを作製して掲示させていただきます。ぜひご利用ください。





ぽれぽれしター ぽれぽれしター

第28号
2016.01.01

FUS(MRI ガイド下集束超音波治療)とは

彩都友誼会病院は、開頭せずに頭部の外から脳内を治療できる画期的な MR ガイド下集束超音波治療機器「エクサブレード・ニューロ」を導入し、臨床研究（本態性振戦の治療）を開始しました。この新治療機器を使用した臨床研究は、日本においては彩都友誼会病院以外では3病院のみで実施されています。

本態性振戦は、自分の意思に反して手や頭が震える運動障害の一種で、高齢者のかなりの割合にみられる症状です。40歳以上で4%、65歳以上で5～14%の罹患率です。重篤化すると運転や食事などの日常動作が困難になり、QOL（生活の質）の低下を招く要因となります。認知度が低く、他の病気（例えばパーキンソン病の振戦）と誤診されることも多く、今後治療のニーズの高まりが予想されます。

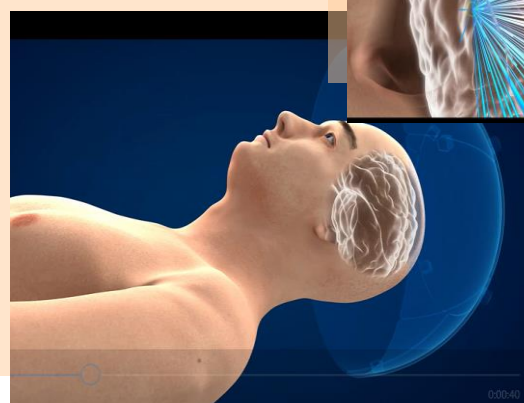
本態性振戦の治療はβ遮断薬などの薬物治療が主ですが、薬物治療が効かない場合には、従来は外科的な切除術や放射線治療、電極で視床に電流を流す「深部脳刺激療法」（DBS）が行われていました。

今回の MRI ガイド下集束超音波治療機器「エクサブレード」は、集束超音波と MRI の2つの技術を組み合わせて頭蓋骨を傷つけることなく、体外から振戦の原因となる患部（視床）に超音波を集束して照射し、熱（50～60℃）で破壊（凝固）させる画期的な治療法です。虫眼鏡で光を一点に集めるのと同様に、エクサブレードを使って体外から超音波を集束して照射し、標的組織を治療します。放射線の被曝がないため、何度でも繰り返し治療が受けられます。治療は MRI 画像で位置を確認しながら行うため、ピンポイントで正確な位置に照射することができ、また照射中の温度上昇を確認しながら治療できます。



治療途中で手の震えの変化を確認している様子

超音波を頭蓋骨外部から収束して照射することで治療を行います



この臨床研究は大阪大学医学部附属病院の脳神経外科医および神経内科医と彩都友誼会病院の医師・メディカルスタッフが手を組み、彩都友誼会病院の 1.5 テスラ MRI 装置と集束超音波治療機器「エクサブレード」を用いて実施しています。

当院の中村病院長は「この新治療は簡便で侵襲が少なく、患者の症状を段階的に確認しながら治療を進めていけるのが大きなメリット」と説明しています。

第1例目は2015年12月19日に施行され、たいへん良好な結果が得られました。

編集後記：昨年12/19に実施された集束超音波治療では、見る見るうちに患者さんの震えが止まるという感動の場面を目の当たりにしました。現在は臨床研究の段階ですが、この治療が広く普及したくさんの患者さんを救うことを願います(福西)

発行者： 中村仁信（病院長） 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号
編集長： 福西康修（放射） TEL072(641)6898 Fax072(641)6097
編集委員： 村井祐子（医師） 岩切昭夫（看護） 林綾子（看護） 常島啓司（情報）
志田原直子（医事課） 春名雅裕（リハビリ） 松尾真奈美（放射）

<http://www.saito-yukokai-hp.jp/index.htm>

「ぽれぽれ」はホームページからダウンロードできます！

このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい